

平成 29 年度ユネスコスクール年次報告書

1. 学校概要

学校名 豊橋市立高師小学校 (※正式名称を記載)
種 別 ☐ 保育園・幼稚園 ☒ 小学校 ☐ 小中一貫^{※注1}
☐ 中学校 ☐ 中高一貫^{※注2} ☐ 高等学校
☐ 教員養成大学 ☐ 専修学校、各種学校
☐ 特別支援学校
☐ その他（例：小中高一貫）
※注1 義務教育学校を含む ※注2 中等教育学校を含む
所在地 〒441-8157
愛知県豊橋市上野町字上原100番地
E-mail takashi-e@toyohashi.ed.jp
Website _____
幼児児童生徒数 男子 348名 女子 315名 合計 663名
幼児・児童・生徒の年齢 7歳～12歳

2. 報告期間

平成29年4月～平成30年3月

3. 活動内容

※記入にあたっては、末尾の留意事項も確認ください。

(1) 活動の概要

本校では、総合的な学習の時間や生活科・社会科等で地域学習と行事とを関連付けた活動に取り組んでいます。地域を見つめ地域から学ぶことにより、地域の「人」「もの」「自然」に目を向け、地域や学校のよさに気づき、誇りや愛着心をはぐくみ、人とのつながりを深めています。そして、自分たちの地域や身のまわりの事象について、多くの人と関わりながら把握し、課題を見つけ、解決に向けて自ら動き出す子どもの育成を目指しています。

①地域に学ぶ活動

・わたしの町 発見【2年】

2年生は、校区の店や工場を見学する「わたしの町 発見」を行いました。校区で気になっている店や工場の中から、見学地を決めました。見たいことや聞きたいことを班でまとめ、見学を行いました。インタビューをしたり、見学メモをとったり、見学に必要な学習技能を身につけるよい機会となりました。

見学後のまとめでは、働く人の姿がたくさん出てきて、働く人の思いや校区のよさを考えることができました。



②地域の人と関わる活動

・昔の遊びに挑戦しよう【1年】

地域のお年寄りの方々に、お手玉・けん玉・あやとりなどの昔の遊びを教えてくださいました。自分たちではなかなか上手にできない昔の遊びを、簡単そうにやっているお年寄りの方々に目を輝かせて見ている子どもの姿がありました。子どもたちは初めての遊びに夢中になって取り組み、お年寄りの方々と笑顔で活動していました。



新入学児との交流会では、自分たちが教えてもらった昔の遊びを、新入学児に一生懸命に笑顔で教えていました。世代を超えた交流で、子どもたちに貴重な経験をさせることができました。

③豊かな心を育てる活動

・飼育活動【4年】

本校では、ヤギ・ウサギ・チャボの飼育をしています。伝統的に、4年生児童が中心となり、飼育に取り組んでいます。3年生になると来年は自分たちが飼育の中心だという思いをもち、4年生は3年生に飼育の方法を引き継ぐための取り組みをしています。ここでは、伝統のバトンパスが見られます。

動物と触れあうことで、命は大切だという思いが育っています。



・稲作体験活動【5年】

稲作体験を通して、農家の人々の努力や自然の恵みに感謝する心を養っています。今年度もPTAの方や校区の農家の協力を得て行いました。田植え・草取り・稲刈りなどをして作ったもち米を使い、餅つきをしたり、6年生への卒業祝いの赤飯にしたりしました。子どもたちは、初めての体験に苦労しながらも、多くのもち米が収穫できたことを喜び、協力してくださった多くの方々に感謝の気持ちをもつことができました。



◎防災教育

・校区合同防災訓練【全校児童】

災害時には、地域の助け合いの力が一番頼りになります。災害時の地域と連携する必要性を感じさせるために、校区合同防災訓練を行っています。

煙体験、起振車体験、消火器体験、応急手当体験、AED体験、バケツリレー、担架作りなどを行いました。多くのPTAや校区の方々が参加していただきました。人とのつながりの大切さを考えさせるよい機会になりました。



(2) 活動の詳細

① 活動内容

ア. 活動分野（複数選択可）

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 環境	<input type="checkbox"/> 2. エネルギー	<input checked="" type="checkbox"/> 3. 防災	<input type="checkbox"/> 4. 生物多様性
<input type="checkbox"/> 5. 気候変動	<input type="checkbox"/> 6. 国際理解、文化多様性	<input checked="" type="checkbox"/> 7. 地域の伝統文化、文化遺産	<input type="checkbox"/> 8. 人権・平和
<input type="checkbox"/> 13. エコパーク	<input type="checkbox"/> 14. ジオパーク	<input type="checkbox"/> 15. グローバルシチズンシップ教育 (GCED)	
<input type="checkbox"/> 16. ジェンダー平等	<input checked="" type="checkbox"/> 17. その他(地域)		

イ. 活動を通して育みたい資質や能力（複数選択可）

<input type="checkbox"/> 1. 批判的に考える力	<input type="checkbox"/> 2. 未来像を予測して計画を立てる力
<input type="checkbox"/> 3. 多面的、総合的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 4. コミュニケーションを行う力
<input checked="" type="checkbox"/> 5. 他者と協力する態度	<input checked="" type="checkbox"/> 6. つながりを尊重する態度
<input checked="" type="checkbox"/> 7. 進んで参加する態度	
<input type="checkbox"/> 8. その他(自由記入)	

ウ. 活動時間（複数選択可）

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 教科の時間	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 総合的な学習の時間
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 特別活動等	<input type="checkbox"/> 4. クラブ活動
<input type="checkbox"/> 5. その他(自由記述)	

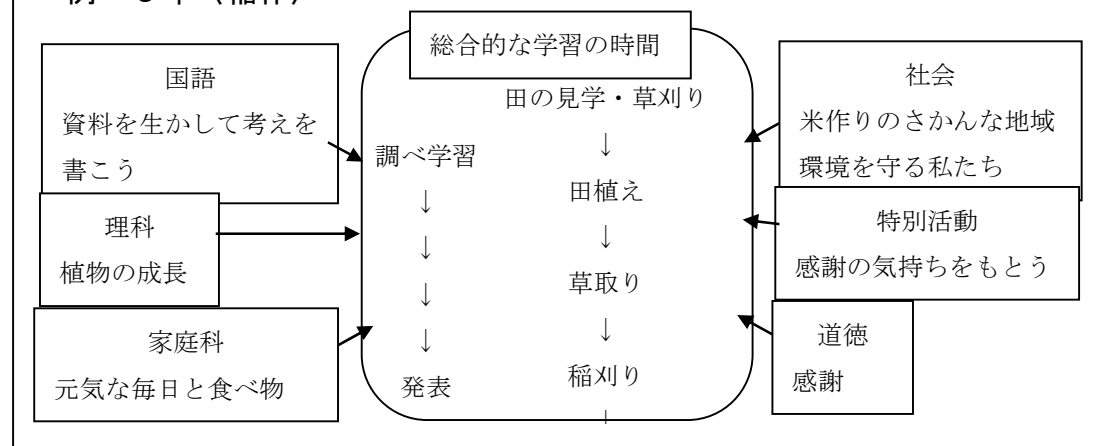
エ. 使用した教材（書籍、ウェブサイト、パンフレットなど具体名）

特にありません。

② ユネスコスクールとしての活動を各校の教育課程（指導計画）にどのように位置付けているか。指導内容を適切に定め、指導方法の工夫改善に努めているか。（200～300字程度）

各学年において、地域の「人」「もの」「自然」に目を向け、地域や学校によさに気づくための活動として核となる学習を決め、教科や行事とも関連づけた教育課程で実践に取り組んでいます。

例 5年〈稲作〉



- ③ 学校全体で組織的かつ継続的に活動に取り組める体制や環境をつくるため、どのような取組を行っているか。(200字程度)

ESD 担当者を決め、組織的に取り組める体制をとっています。各学年における実践者は毎年変わっていくので、継続的な活動になるように、PDCA サイクルを取り入れ、次年度に引き継ぐようにしています。また、活動にあたっては外部機関との連携も不可欠なので、教頭を中心に組織的な取り組みができるようにしています。

- ④ ユネスコスクールとしての活動の質の向上のための学校活動の評価(内部/外部)の方法・具体的内容と、それによって明らかになった成果と課題。(200字程度)

子どもたちが自ら学ぶ姿を目ざした問題解決学習への取り組みについて、今年度の実践を振り返り、次年度に向けた手だてを校内で話し合う機会を設けました。そこでは、子どもの意識に沿った問題作りを行うことで、学習に意欲的に取り組む姿が見られるようになったという成果が出てきました。ただ、教師の力量の差が子どもたちの変容にも表れているので、問題解決学習に対する授業力向上にも力を入れていく必要があることが明らかになりました。

- ⑤ ESD の推進拠点としての活動成果の発信方法・内容と、発信により得られた効果。(200字程度) ※チェック事項 2-2 に対応

各学年の活動内容と子どもたちの変容を簡単にポスターにまとめたものを、ユネスコスクール豊橋大会にて掲示して発表しました。

活動から得た子どもの気づきや思いを手紙などでまとめ、関係してくださった方々に渡しました。子どもたちの様子が詳しくわかることにより、一層協力しようと考えてくださる方々が増えました。

- ⑥ 学校以外の団体との協働・交流・ネットワーク形成(地域コミュニティ、大学、ESD 活動支援センター、ESD コンソーシアムとの連携など)(200字程度)

P T A、地域教育ボランティアとの連携は、教頭を中心にとれています。各学年の活動に沿って、とても協力的な関係ができています。今後もこの関係を続けていくとともに、連携する人をいかに増やしていくかが課題になっています。

⑦ 国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成（２００字程度）

※チェック事項 2-4 に対応

国内のユネスコスクールの研究発表会に参加し、実践を校内現職研修会で広めています。

子どもたちの学習活動としての国内外のユネスコスクールとの交流については、人と時間の確保が不十分なため、交流ができていないのが現状です。

⑧ ユネスコスクールの活動による効果について、特筆すべき（特に強調したい）内容（例えば児童生徒、教員、カリキュラム・教授法、学校経営、地域・保護者との関係など様々な面でのポジティブな変化）（２００字程度）

※チェック事項 2-5 に対応

地域の「人」「もの」「自然」に目を向け、地域の方との関わりを重視した活動は子どもの意識に沿いやすく、意欲的に活動する姿がよく見られました。友達同士の関わり合い、地域の方との関わり合いを大切にすることで、聞く力・話す力が向上しています。

（３）平成 30 年度の活動計画（２００～４００字程度）

〈１年生〉

昔の遊びに挑戦しよう

〈２年生〉

わたしの町 はっけん

〈３年生〉

防災について考えよう 大好き高師発見レポート

〈４年生〉

動物博士になろう

〈５年生〉

高師っ子米を育てよう

〈６年生〉

福祉って何だろう

〈全校〉

校区合同防災訓練